



<http://www.jaaso.or.jp/>

JAあそだより

平成31年2月

■今号12ページ 主な内容

- 「祈願祭・仕事始め式」／青壮年部、復旧・復興祈願の「門松」寄贈
- 熊本県農業コンクール大会表彰式
- 熊本県農業経営危機突破大会
- 生産各部会の生育・出荷・査定会などの動きetc.

今号も話題と情報を満載!!



2019
立春
VOL. 103



●▲ 阿蘇農業協同組合

本所 〒869-2612 熊本県阿蘇市一の宮町宮地387-5
TEL 0967-22-6111 / FAX 0967-23-1088

黒川温泉「湯あかり」(撮影=河原 瀬奈)

原山組合長「本年は平成最後の年、自己改革の正念場の年、JA阿蘇として最大限の努力を！」

1月7日、本所駐車場で「祈願祭および仕事始め式」が行われ、役職員ら約100人が参加しました。

神事が厳かに執り行われた後、原山寅雄組合長が「本年は平成最後の年で自己改革の正念場の年でもあります。1月下旬より始まる組合員アンケート調査において、農協がなくてはならないという評価をもらわなければならぬ。そして、これから始まる3カ年計画に沿って事業を行っていく。昨年は農産物の販売高が好調で、この勢いが本年も継続できるように販売努力とコストの削減、農家所得増大に向けて更なる努力を行い、JA阿蘇として残るべく最大限の努力を職員・役職員一丸となつて行っていく」と職員を力強く激励しました。

役職員ら約100人が参加し 祈願祭および仕事始め式



神事の様子(写真上)
年頭の辞を述べる原山組合長
(写真中・下)



JA阿蘇青壮年部 地震からの復旧・復興を祈願し 昨年に続き仮設団地へ門松贈る



贈った門松を前に入居者の方々と記念撮影



門松を造ったJA阿蘇青壮年部盟友の皆さん

JA阿蘇青壮年部(橋本龍生部長)は12月21日、熊本地震による管内10カ所の仮設団地へ昨年に続き手造りの門松を寄贈しました。地震から2年半以上が経ち復旧・復興が進んでいく中、未だ我が家で正月を迎えることの出来ない入居者に対し、少しでも正月気分を味わってもらい新春の門出を迎えてほしいと行われました。

門松造りには全て地元阿蘇産の材料を使用し、前日より中部野菜選果場で盟友らが作業を行い、出来上がった門松はそれぞれ盟友の車で各仮設団地へ運ばれ飾り付けられました。

仮設団地の人々は「今年も寄贈して頂いてとても感謝しています。より良い新年を迎えられます」と喜びを表していました。橋本青壮年部長は「笑う門には福が来る。入居者から笑顔が溢れ、一日も早い熊本地震からの復旧・復興を祈願し寄贈させて頂きました」と話していました。



JA阿蘇本所玄関にも飾られた門松



門松造りの様子

平成30年度(第59回)熊本県農業コンクール大会表彰式

JA阿蘇管内から
個人・団体が4部門で受賞



県農業コンクール大会の開会で祝辞を述べる蒲島知事

熊本県農業コンクール大会表彰式が
1月31日、熊本テルサで行われました。

JA阿蘇管内からは、経営体部門優良賞に西村豊治さん(阿蘇市)、新人王部門優良賞に木之内勇樹・愛美さん(阿蘇市)・愛美さんには併せて「女性の活躍賞」も授与、地域農力部門優良賞に産山酒米研究会(渡辺裕文代表)、地域貢献賞に井博明さん(産山村)が選ばれ、大会総裁の蒲島郁夫熊本県知事から表彰を受けました。

各受賞者の主な品目・取組・活動内容・功労の実績等(大会資料による)は次のとおりです。(敬称略)

◇経営体部門優良賞Ⅱ
西村豊治



経営体部門優良賞の西村さん

◆ 高い栽培技術(土づくりを重視した栽培、新品種を作りこなす観察力)、農地の1カ所への集約、雇用労働力を活用した規模拡大により、収益性の高い大規模経営を確立する。

◆新人王部門優良賞Ⅱ
木之内勇樹・愛美



新人王部門優良賞の木之内夫妻

◆ 肉用牛繁殖経営を開始。阿蘇の参入で肉用牛繁殖経営を開始。阿蘇の

牧野を活用した放牧により労力削減と繁殖牛の教養年数の延長を行う。パートナーによる子牛の管理により早期分娩を可能にする。

◇地域農力部門優良賞Ⅱ
産山酒米研究会 渡辺裕文



地域農力部門優良賞の渡辺代表(左)

◆ 鯉を利用し無農薬・無化学肥料で栽培した酒米「五百万石」でオリジナル日本酒・焼酎を生産している。地元の小学生を招いて鯉の放流等の農作業体験を実施する。



◇地域貢献賞Ⅱ 井 博明



地域貢献賞の井さん

◆ 業績・功労の実績Ⅱ「前期粗飼料多給型飼育」というこだわりの飼育方法で、あか牛の肥育を行うほか、農家レストランによるあか牛ブランド推進と県外販路拡大に努める。また草づくりや計画的な草地更新を実践している。



県農業コンクール大会で答辞を述べる受賞者代表

生産各部会の生育・出荷・査定会・総会などの情報①

一月七日「七草」出荷に向けて
小国郷七草部会がサンプル作成

小国郷七草部会は昨年11月下旬、新年の七草出荷に向けてサンプル作成を行いました。七草のサンプルはデザインや形状が新パックに変更されたことを伝えるため、取引市場へも発送されました。取材時(11月下旬)、例年より暖冬で、全品目が順調に生育しており、前年は見栄えが悪かった大根やカブも当年は重量もあり、問題なく出荷できる予定です。

二田水宏一部会長は「年に一度の縁起物の作物なので失敗は許されたい。これからまた気を引き締めて出荷まで順調に行きたい」と抱負を語っていました。

指導担当の大塚孝政職員は「今後、暖冬傾向で進む見込みなので、太り過ぎや病気など出さないように栽培管理を行ってほしい」と話していました。

小国郷七草部会は6軒で1軒ごとに7種類を栽培し、パック詰めまでを行っています。当年度は約19万パックの出荷を目標に栽培し、主な出荷先は熊本県・福岡県を中心に九州管内に発送します。(七草パックのサンプル作りをする生産者の皆さん 11月28日撮影)

大好評です！「レンジでチン」
問い合わせ殺到！小国郷甘藷部会

小国郷甘藷部会は11月下旬からの甘藷出荷に伴い「小国紅のレンジでチン」の出荷も開始しました。

この「レンジでチン」は、同部会が約20年前から有利販売をするために取り組んでいる出荷規格で、顧客も多く、贈答用(お歳暮)としても遠くは北海道まで送られています。

甘藷は9月下旬頃から掘り出して2カ月ほど貯蔵されたもので、当日の出荷分は前日に泥を洗い、乾かして水分をしっかりと切り、一つ一つ手作業で袋詰めをしています。そのため1日に対応できる出荷数量は限られています。

販売担当の穴井敬大職員は「今季も安全安心な美味しい甘藷を消費者に届けていきたい。貯蔵期間を経て甘みが増した甘藷をぜひ堪能してほしい」と話していました。

部会ではパンフレットも作成して「レンジでチン」には紹介文も添えて消費者へ届けるようにしています。

「レンジでチン」は2L(1本入り×8袋)1300円、L(1本入り×10袋)1500円、M(2本入り×8袋)1800円、S(2本入り×10袋)1700円となっています。詳しい問い合わせは小国郷営農センター ☎0967・463212まで。(写真上「レンジでチン」を紹介する穴井職員)

西原地区の「甘みのある甘藷」
香港へも輸出、有利販売へつなぐ

西原集荷場には連日(1月下旬取材時)、生産者によって甘みのある貯蔵甘藷の持ち込みが行われています。

西原地区の甘藷は、消費地や市場から高品質で甘みのある品物として好評で年々消費が伸びています。2018年産は天候にも恵まれ、収量は前年の2割増しとなりました。取材時、日量3500〜4000ケース(1ケース5kg)程度を東海・関西地区を中心に出荷しており、7月までに1550tを出荷する予定です。

また6年前より小玉階級の2S、3Sは国内の市場流通単価よりも高く販売ができる香港等へ輸出をすることで、有利販売につながっています。

担当職員の鞭馬直輝職員は「集荷日ごとに慣らし会をしており、高品質維持の取り組みをしていることが選ばれる産地につながっている」と話して

生産各部会の生育・出荷・査定会・総会などの情報②

※前ページより続く

いました。野田仁士部会長も「味・品質は他産地に負けない自信があるので、ぜひ食べて頂きたい」と力強く語っていました。

部会では500gの袋詰め販売等もしており、有利販売につながる工夫を試みています。(前ページ写真⇨持ち込まれた甘藷の品質検査をする担当職員)

新設のイチゴパックセンター
南部地区の生産者作業負担を軽減



南部野菜センターに2018年11月新設された南部地区イチゴパックセンターには、連日200〜300コンテナ(1コンテナ⇨2.5kg)のイチゴが持ち込まれており、関西地区をメインに県内外に出荷されています。

同パックセンターは生産者の作業負担軽減を目的とし、その結果が品質向上や作付面積拡大に繋がるといふこと

で設立されました。以前から中部野菜センター内にパックセンターがありましたが、南部地区からの持ち込みは時間が取られ、輸送中の品質低下などが懸念されていました。

南部野菜センター内の新たなパックセンター設置ということもあり、作業員不足やパック詰め作業の経験不足など課題はありますが、担当の齋藤光弘職員は「日々効率の良い作業が出来るよう生産者も交え、従業員と意見を交わしながら作業に取り組んでいる。課題を一つ一つ解決していくことで、生産者が安心して生産面に力を入れることが出来るような環境づくりをさらに目指したい」と語っていました。

今年よりパックセンターに出荷している生産者は「パック詰め作業をしないことで、栽培管理に時間を充てること出来る。それは結果として品質や収量向上に繋がってくる」と話していました。今年と同パックセンターの取り扱い予定数量は27万パック(1パック⇨250g)、取扱品種は大半が「恋みのり」となっています。

春先の出荷最盛期に向けて、同パックセンターでは従業員募集も行っています。問い合わせ先⇨南部野菜センター
☎0967・62・9976。(写真上⇨イチゴのパック詰め作業をする従業員)

過去最高の販売額 14億2700万円 達成
生産者の努力が実る=中部トマト部会



中部トマト部会は12月20日、2018年度部会反省会を阿蘇市内で開き、生産者・行政・市場・JA関係者ら約170人が出席しました。

同年度は生産者数146人(前年比98%)、栽培面積38ha(同96%)、出荷重量3935t(同97%)、販売金額14億2千7百万円(同119%)、反収数量10.3t(同101%)と過去最高の販売額で終了しました。

犬飼忠綱部会長は挨拶で「本年度は猛暑により生産環境が厳しい中だったが優良な出荷実績となった。市場関係者の方々からも、過去最高の販売額の実績となり大変感謝をされている」と生産者の努力をねぎらいました。

また、営農部園芸課の宮崎大智指導員は生産経過報告で「高温の影響によ

り生育障害が多々見られた。次年度も事前対策指導を重点的に実施したい」と抱負を述べました。

同部会は、新規就農者の加入や後継者である若手農家が増加の傾向であることから、生産規模の拡大や反収増に繋がっています。総会では表彰も行われました。部門及び表彰された方は次のとおりです。(敬称略)

- ▽総販売高部門(1名) 齋藤孝幸
- ▽栽培技術部門(10名) 後藤修・山内孝志・岩下幸史・菅義徳・安永誠
- 治・水本圭二・小野勝文・井啓史
- 甲斐吉郎・塩貝怜



写真上=表彰の様子/写真右上=部会反省会会場の様子

生産各部会の生育・出荷・査定会・総会などの情報③

「夏秋ミニトマト」
過去最高の販売実績で終了
中部ミニトマト部会



2018年度反省会で挨拶する坂田部会長(写真中央)

中部ミニトマト部会は12月19日、2018年度反省会を阿蘇市で開き部会員や行政・市場・JA関係者ら約40人が出席しました。

同年度は、栽培面積3.2ha(前年比107%)、生産者数19人(同106%)、出荷数量5万7千ケース(1ケース≒3kg/同109%)、販売額1億2千万円(同143%)、10a平均反収重量5.5t(同102%)で、前年度を大きく上回る結果となり、過去最高の販売実績で終了しました。

坂田一雄部会長は「今シーズンも厳しい生産環境の中、前年を上回る出荷量となり、実績については産地として

の大きな強みとなった。部会員・関係機関の皆様へ感謝を申し上げます」と挨拶しました。

市場関係者は「全体的な入荷が減ってきている中、数量が増えたことは非常にありがたい。3kgバラ詰め規格については業務用の需要が最も多く、中卸のアイテム調整がしやすいと好評価を得ている」と話していました。

次年度も新規就農者の部会加入や栽培面積増を予定しており、更なる産地作りを目標に生産者一人一人が生産意欲の向上を目指しています。

当日は表彰も行われ、次の方々が表彰されました。(敬称略)

▽栽培技術部門(3名)坂口新一郎・

坂梨秀幸・小西孝浩

「栽培管理の基本を確認し、
収量アップにつなげよう」
アスパラ生産レベルアップ勉強会

アスパラ部会は1月16日、栽培技術レベルアップ勉強会を中部営農センターで行いました。この勉強会は生産者の栽培技術向上を目的として昨年より行われており、月1回のペースで基本的栽培技術を中心に開かれています。

同部会では、生産者の技術格差に大きな開きがあり産地の平均反収も2t



勉強会で作業内容を確認するアスパラ生産者

前半と低いことが現状です。

指導販売係の後藤真智職員は「先ずは作業工程の遅れがないことが大事であり、自分の目標に向かっていかに準備するか最終的な結果に繋がる」と話し、勉強会で使用した資料をベースに阿蘇地域振興局農業普及・振興課とも協力して、栽培マニュアル作りもしていく予定です。参加した生産者からは「基本を確認すると同時に、優良生産者の栽培事例も聞けるので勉強会は役に立つ」と感想を話していました。

また同部会では、栽培管理のポイント時期には管内を4つの区域に分け、それぞれの区域に合った栽培管理講習会も実施しています。

炎よりも熱い心でアスパラ栽培
新規就農の山口裕亮さん

祖母が大事に育ててきた
アスパラ引き継ぐのは
自分しかない！



親木の刈り取り作業が終わったアスパラガスのハウスで、「ゴォー」という音とともに灼熱の炎で株元を焼くアスパラ部会の山口裕亮さん(31歳)。

昨年5月に定植したアスパラガスが収穫1年目を迎え、自らの手で植えたアスパラガスへの想いはバーナーの炎よりも熱く感じるそうです。

山口さんは2017年4月からアスパラガス栽培を始めた新規就農者。

就農前から祖母のアスパラガス栽培を手伝っていた山口さんは「祖母が大事に育ててきたアスパラガスを引き継ぐのは自分しかない」と思い就農し

生産各部会の生育・出荷・査定会・総会などの情報④

※前ページより続く

した。その後、平成29年度生産総合対策事業により、低コスト耐候性ハウス19.2aを導入しました。

J A阿蘇のアスパラガス栽培は熊本県の34%を占める産地となっており、年間約750tを全国に出荷しています。そのような背景の中、山口さんは「高品質の美味しいアスパラガスを作り、阿蘇のアスパラガスを食べた方が幸せを実感できるようにしたい」と熱い

**原木栽培「生しいたけ」品質良好
消費者に選ばれる
「蘇陽産地づくり」目指す**



蘇陽集荷場では生椎茸の出荷が続けられており、1月中旬の取材時、日量200〜300ケース（1ケース11kg）が持ち込まれています。

蘇陽地区では130人の生産者が原木栽培に取り組んでおり、阿蘇の気温

抱負を持ち続けています。

指導販売係の後藤真智職員は「若い生産者の存在は産地にとっても活気に繋がる」と話し、今後もアスパラガス栽培への新規就農者を期待しています。

J A阿蘇では営農部営農企画課を新規就農者の窓口としており、就農支援制度などについて全面的なバックアップを行っています。（前ページ写真IIバーナー焼きをする山口裕亮さん）

差を生かして肉厚の生椎茸を作っています。

現在（取材時）、出荷されている生椎茸は2年前に原木へ駒を打ち込んだもので、出荷最盛期には日量2000ケースになることが見込まれています。今後、九州管内を中心に26tの出荷を5月まで予定しています。

本田孝文部会長は「原木で育った風味豊かな椎茸を多くの人に食べてほしい。また、消費地ニーズに合わせた出荷アイテムも検討していきたい」と抱負を語り、販売担当の甲斐亮太職員も「どの産地にも負けない肉厚と味に自信を持っているので、阿蘇というブランドを生かした販売を今後もしていきたい」と意気込みを語っていました。

部会では定期的に目慣らし会をしており、均一なものを出荷することで市



**野尻地区「ストック」出荷最盛期
循環扇活用で温度ムラ対策**

高森町野尻地区では1月中旬、多数ある花品目の一つ「ストック」の出荷最盛期を迎えました。

生産農家では寒さ対策をしながら収穫作業を行っています。現在、出荷を迎えたものは昨年9月に定植されたものです。野尻地区のストック栽培は冬場の繋ぎ品目として栽培されており、平地の出荷開始となる時期には出荷終了

場より高い評価を得ています。また原木栽培という特徴を生かし、量販店でも消費者に伝わるように出荷資材に「生しいたけ」と記載しています。（写真上II持ち込まれた

椎茸の品質検査をする担当職員）

となるため、他産地との重なりがないなどのメリットがあるとして栽培が続けられてきました。

生産者の白石豊和さんは「7月の定植分ではコナガ対策に苦戦した。全体的に品質は良いが、花が凍らないように寒さ対策がまだまだ必要」と話し、ハウス内温度にムラがないように循環扇を活用し

ています。

同地区担当の堀畑善美職員は「品質も良く、安定した出荷体制で豊富な種類があるため産地として市場から期待されている」と今後の出荷に期待を寄せています。

ストックの用途としては葬祭や仏花として使用されることが多く、ストックの主な出荷先は九州地区で、3月までに約5万5000本が出荷される予定です。（写真右上II生育状況を確認する担当職員）



生産各部会の生育・出荷・査定会・総会などの情報⑤

栽培管理や更なるブランド化へ勉強会
小国郷大根部会

熱心に講義を聞く小国郷大根部会勉強会

小国郷大根部会は1月28日、これらの作付けに向けて土作りと更なるブランド化に向けた勉強会を開き、部会員・経済連肥料農薬課・JA関係者ら約30人が参加しました。講師の本田民雄さんは土壌管理について、物理性・化学性・生物性などの特徴や毎年被害がある病害虫についての講義で、施肥では肥料成分を補うことや完熟堆肥や有機資材等の施用、土壌消毒を行い消毒後は微生物を増やすなどの注意点を述べました。またブランド化に向けては、農業経営、農産物の流通、消費者の満足度、高品質・安定出荷・新商品の開発等の要点を述べました。

参加した生産者は「とても勉強になった。きょう勉強したことを活かす」と話していました。

農業離れ、農地遊休化に歯止めを！
「共有・共感・共働・共創」を掲げ
農事組合法人「久石ファーム」設立

昨年12月18日、農事組合法人「久石ファーム」(藤原孝誠代表理事、構成員35人)の設立総会が行われました。南阿蘇村内では2組目となります。

「いきなり、ブランド化は難しいことだが、今ある小国ブランドを大切にしたい」と感じを語っていました。

農事組合法人とは、農業の協業化と農地の適正管理を推進するための法人組織で、米価の低下などにより個人経営が困難な中、農業離れや農地の遊休化などの状況を解決することなどを目的としています。「久石ファーム」の前身である「第二駐在区営農組合」は1983年の立ち上げ時から、農機具の共同利用や農作業受託などの営農活動を行い、地域農業を守ると共に風光明媚な田園風景を守ってきました。

しかし、担い手の高齢化、後継者不足で次世代へ農地を引き継ぐことが困難な中、昨年5月に県単事業の農地集積加速化事業の促進地区指定を受け、6月に事業推進委員会を設立。地元農家へのアンケートを実施し、地元農家の状況を把握したところ、多くの農家が「営農組合の法人化移行」の意向を示す結果となりました。

藤原代表理事は設立総会で「久石ファームの目標として、何事も組合員間で共有し喜びや楽しみを共感するため、共に動き新しいものに挑戦し共に創り上げる『共有・共感・共働・共創』の『四つの共』を掲げ一致団結し、地域農業の発展に向け、地域から信頼される農業法人を目指していきます」と熱く抱負を述べました。(写真上：農事組合法人「久石ファーム」関係者)

「熊本県農業経営危機突破大会」及び「第26回JA熊本県大会」開催

写真↓「JA県大会」の様子

農業経営を取り巻く危機を打破し、持続可能な農業・農村の実現と、国民の食料の安定供給体制の維持・確立に向けた農業者の意思結集を図るため平成30年12月9日、グランメッセ熊本で「熊本県農業経営危機突破大会」が開かれました。この大会には県内のJA関係者ら約3000人が参加しました。

終了後「第26回JA熊本県大会」が行われ、創造的自己改革の実践を基本目標に、中期戦略及び具体的な実践事項を掲げた大会議案が可決されました。最後にJA島根中央会常務理事の影山喜一講師による基調講演が行われました。





**「未来塾修了レポート発表会」
大塚孝政職員が研修成果を発表**



J A熊本中央会主催のJ A戦略型
中核人材育成研修会『未来塾』の修了レ
ポート発表会が1月11日、J A熊本教
育センターで行われ、小国郷営農セン
ター園芸課指導販売係の大塚孝政職
員が研修の成果を発表しました。

この研修会は今後のJ A運営を担う
中核となる人材を継続的に育成するこ
とを目的に、各J Aから推薦された研
修生15人がさまざまな考え方やノウハ
ウを身に付けるため、昨年5月から10
回、延べ25日間の研修を受けてきまし
た。当日は各J Aの常勤役員や上司な
どが参加。7分間ずつのプレゼンテー
ション形式で行われ、研修生はパワーポ
イントを使い、J Aがとるべき戦略やそ
の実践具体策を力強く発表しました。

大塚さんは『まるごと阿蘇アグリ
シエア』と題して、農業者の高齢化や後

**日頃の業務の腕前を披露
JA阿蘇ロールプレイング大会**



ロールプレイング競技の様子

員、写真下2人前列右から2人目が大塚職員

継者不足による空き
ハウスなどの問題を
J A阿蘇のホーム
ページや広報誌を使っ
て閲覧や申し込みが
出来るような仕組み
などの提案、今後J A
として出来ること等
について発表しまし
た。(写真上2人プレゼン
テーションをする大塚職

J A阿蘇は12月8日、一の宮中央支
所で6チームが参加し信用窓口担当者
による「ロールプレイング阿蘇大会」を
行い、最優秀賞に小国郷中央支所の河
津由紀・穴見優子職員チームが選ばれ
ました。審査には原山寅雄組合長ら70
人の関係職員が参加しました。
この大会は毎年行われており、お客
様に選ばれ信頼される地域ナンバーワ



優秀賞の
田上・下田チーム



優秀賞の
山本・上原チーム



最優秀賞の
穴見・河津チーム

ンの窓口を目指し、テラー役・上司役の
2人1組のチームで、所要時間内に与
えられた課題の中で工夫を凝らし競
技を行いました。最優秀賞チームは3
月2日、宇土市民会館で行われる「J A
バンク熊本窓口ロールプレイング大会」
(J Aバンク熊本主催)に出場します。
成績は次のとおり。(敬称略)
▽最優秀賞 河津由紀・穴見優子
(小国郷中央支所)▽優秀賞 上原祐
子・山本孝子(一の宮中央支所)、下田
奈美・田上清勝(阿蘇南高森支所)

農業用廃プラ約28tを回収！ 小国郷営農センター



小国郷営農センターは12月上旬、農
業用廃プラスチック回収を行い、今回
は114人が使用済みの農業用ビ
ニール・ポリフィルム・肥料袋・畜産用
ラップ・灌水チューブなど約28tを持
ち込みました。農業用廃プラスチック
類の野焼きや不法投棄は禁止されて
おり、廃棄物の処理は使用した農家の
責任となっています。J A阿蘇では毎
年、定めた回収日・回収場所まで持ち
込んでもらい、適正に処理を行う再資
源化窓口となっています。また、処理
費が少しでも生産者の負担にならない
ようJ Aからの助成も行っていま
す。廃プラスチック類を持ち込んだあ
る農家は「毎年、回収を行ってもらい
助かる。降ろす作業も職員さんが手
伝ってくれてありがたい」などと話を
していました。

「JA阿蘇きらり」



西原農機車輛センター

ば ば ひろし
馬場 弘

- ★趣味=からあげ・ラーメンめぐり、花火めぐり
- ★一言コメント=車検台数を増やすように日々ガンバつてます。農協に入って10年目です。子供が2人とインコ飼ってます。



阿蘇南中央支所共済課南部地区LA係

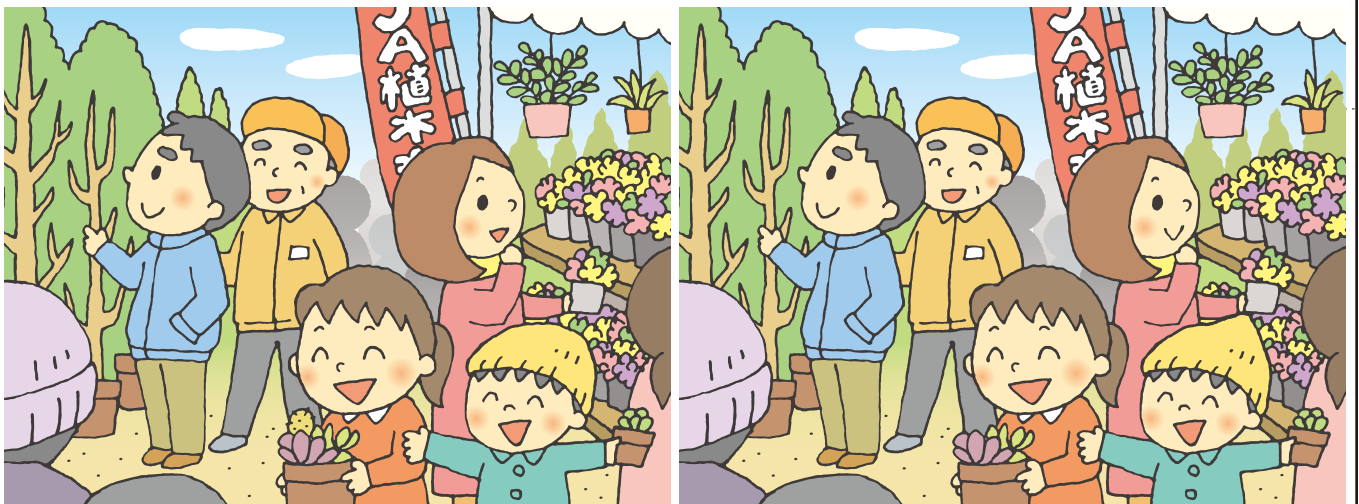
と だ よしひで
戸田 佳秀

- ★趣味=映画鑑賞、ドライブ
- ★一言コメント=入組10年目となりました。日々勉強の毎日ですが、組合員・利用者の方々に満足していただけるよう、頑張ってます。

JA阿蘇 イラスト違い探し「JA植木まつり」

(出題:イラストレーター みやたまゆき)

左右2枚のイラストには、違っているところが4か所あります。探してみてください!



※答えは11ページにあります。

理事会・監事会報告

■平成30年度第11回理事会

日時 平成30年12月14日午後3時00分

場所 リバーサイドホテル熊本

1. 開会
2. 組合長挨拶
3. 協議事項

委員会報告(債権管理委員会)

11月末実績報告について

平成30年度上期決算監事監査報告書について

- 1) 平成30年度全国監査機構期中監査回答書(案)について
- 2) 理事会運営規程の改正について(案)
- 3) 職制規程の職務権限表の改正について(案)
- 4) 債権の償却要領の改正について(案)
- 5) 資産査定要領の改正について(案)
- 6) 貸出金について
- 7) JAネットバンク機能充実に伴う住宅ローン一部繰上返済条件の設定について(案)
- 8) JAネットバンク機能充実に伴う専用定期貯金の取扱いについて(案)
- 9) JAネットバンク・ATM(自転車)の振込手数料の変更について(案)

報告事項

- 1) 平成30年度導入家畜等柵卸監査実施要領について
- 2) 平成30年度JA共済コンプライアンス点検結果および改善方針の概要について
- 3) 平成30年度産米最終実績について
- 4) 平成30年度組合員の加入及び脱退の状況について
- 5) 年末年始の業務等(金融・共済・営農・購買)について
- 6) 年末年始休日の緊急連絡先について
- 7) 仕事納めに伴う支所巡回並びに新春の年賀について

4. 閉会

■平成30年度第12回理事会

日時 平成31年1月29日午後1時30分

場所 一の宮中央支所会議室

1. 開会
2. 組合長挨拶
3. 協議事項

委員会報告(経済専門委員会、総務専門委員会、金融共済専門委員会)

12月末実績報告について

- 1) 平成30年度上期決算監事監査回答書について(案)
- 2) 内部監査規程の改正について(案)
- 3) 共済規程変更について(案)
- 4) 旅費規程の改正について(案)

- 5) 給与規程の改正について(案)
- 6) 「マネロン等および反社等への対応に関する基本方針」の改正について(案)
- 7) 「反社等への対応に関する規則」の改正について(案)
- 8) マネロン等への対応に関する規則の制定について(案)
- 9) リスク評価書の全部改正について(案)
- 10) リスク総括表の全部改正について(案)
- 11) 貸出金について
- 12) 旧産山支所固定資産処分について(案)

報告事項

- 1) 平成30年度自主検査結果報告(7月～9月)について
- 2) 内部監査実施状況報告書(平成30年10月～12月)について
- 3) 熊本県常例検査 検査書の交付について
- 4) 内部監査の品質に関する内部評価報告書について
- 5) 平成30年度決算監査(期中Ⅲ資産査定等)の実施について
- 6) 地公体貸出金について(報告)
- 7) 平成30年度JA阿蘇農政連会費等徴収実績報告について
- 8) 地域ローンセンター媒介業務実績(平成30年12月分)について
- 9) 平成30年度JA阿蘇コンプライアンス・プログラムの進捗状況(平成30年12月末)について
- 10) 不祥事未然防止の為の行動計画進捗状況(平成30年12月末)について
- 11) JA阿蘇活動総合3ヶ年計画の進捗状況(平成30年12月末)について

4. 閉会

●平成30年度第10回監事会

日時 平成31年1月22日午後1時30分

場所 本所2階第1会議室

1. 開会
2. 挨拶
3. 議題

- 1) 平成30年度導入家畜等柵卸監査実施要領について
- 2) 柵卸監査実施要領(案)について
- 3) 平成30年度全国監査機構期中監査回答書に対する監事の意見書について

報告事項

- ① 常勤監事業務報告について
- ② 常勤会議等報告について
- ③ 不祥事未然防止策内部監査実施状況報告書について(平成30年10月～12月)
- ④ 平成30年度期末監事研修会について
- ⑤ 行事予定について

4. 閉会

●●●JA阿蘇職員異動のお知らせ(平成31年1月7日発令)●●●

氏名	新 辞 令	旧 辞 令
成瀬誠一郎	一の宮中央支所購買課一の宮給油所長	一の宮中央支所購買課やまなみ給油所長
石田 義則	一の宮中央支所購買課やまなみ給油所長	一の宮中央支所購買課一の宮給油所長

スマイル 倉岡 優希

(クラカ コウキ・24歳)

☆所属部署 一の宮中央支所金融課金融係

☆趣 味 読書・音楽鑑賞

☆一言コメント

入組6年目で、まだまだ未熟な私ですが窓口でのお客様との会話も増え、とても楽しい毎日を過ごしております。仕事内容も覚えることが沢山ありますが、組合員・利用者の期待に応えられるようスキルアップに励んで精進致しますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



2019年10月1日 から 消費税の軽減税率制度 が実施されます

- ◎ 平成31年10月1日より、消費税率が10%に上昇します。
- ◎ これに合わせて飲食料品（加工品・農畜産物を含む）については軽減税率（8%）が適用されます。

☆軽減税率が適用される農畜産物

主食用米・野菜・果実・枝肉など、飲食料用として販売されるもの

☆軽減税率が適用されない農畜産物

飼料用米・種子・花卉類・素牛など、飲食料用として販売されないもの

- ◎ 軽減税率の導入により、軽減税率が適用される農畜産物を販売した際の、委託販売手数料の取り扱いが変わります。
※ 軽減税率が適用されない農畜産物の販売に係る委託販売手数料の取り扱いは、変更ありません。

☆平成31年9月30日までの取り扱い（現行）

販売金額から委託販売手数料を控除できます

☆平成31年10月1日以降の取り扱い

販売金額から委託販売手数料を控除できませんので、免税事業者だった方も課税対象になるかもしれません

上記の内容及び、軽減税率制度の勉強会を開催致します

【開催日時】

・平成31年4月24日(水) 14時～(一時間程度)

・会場：一の宮中央支所 大会議室（一の宮町宮地387-5）

【問い合わせ】

・電話：0967-22-6115

営農部営農企画課 担当 杉原まで

農業経営者のみなさん

青色申告

を始めましょう

思っていたより、ずいぶん
簡単だったね！

e-Taxも
便利だね！

青色申告は

現金出納帳等を整備して、日々の取引を
残高まで記帳・保存すれば、青色申告を行えます
(簡易方式)

かんたん！

※ 青色申告を新たに始める方は、原則、その年の3月15日までに
所轄の税務署に「青色申告承認申請書」を提出する必要があります。

農業収入の減少を広く補償

収入保険に

加入申請時に青色申告の実績が1年分
あれば加入できます

※ 平成31年分の青色申告の実績が揃えば、平成33年1月からの
収入保険に加入できます。

加入できます

メリットも

最高で65万円の特別控除！
損失額の繰越しや繰戻しができる！
専従者の給与額を必要経費に算入できる！
農業経営基盤強化準備金制度が使える！

たくさん！

青色申告については、税務署、JA、農業会議、農業経営相談所などへお尋ねください。
収入保険については、最寄りの農業共済組合へお尋ねください。

